

# 関東農政局長賞受賞

二つの町の住民全員で蘇らせる菜の花のある美しい農村風景  
～帯那で暮らしたいと思われるむらを目指して～

受賞者 **帯那地域活性化推進協議会**  
(山梨県甲府市)

## ■ 地域の沿革と概要

山梨県甲府市は五次にわたる町村合併を経て、現在の市域を形成するに至っており、帯那地域のある旧千代田村は昭和29年に甲府市に編入された。帯那地区は、上帯那町と下帯那町の2つの町で構成され、その大部分は山林となっており、集落及び耕地は標高が低い傾斜地に集中している。地域の河川は水量が少ない帯那川のみで、農業用水が不足するため灌漑用のため池が複数整備され、なかでも甲府市街と秩父多摩甲斐国立公園の景勝地として知られる昇仙峡の間にある丸山ため池（千代田湖）は、昭和12年に県営農業水利事業で建設された県内最大の貯水池で、ヘラブナ釣りの名所として県外からも客を集めている。

第1図 位置図



## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

甲府市は山梨県のほぼ中央に位置し、市の最北の山岳地域には2,000mを超える峰々から南に低く傾斜している。帯那地域は甲府市北部山岳地域の標高が560～800mと高い山間地に位置し、中心市街地とは景観も別世界となり気候は冷涼である。県道104号により甲府駅からは4～5kmの距離にあるものの、標高差が300～450m程あり過疎化のため公共交通機関はバスが1日2便往復となっている。

第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	旧市町村単位の集団等
地区の性格	機能的な集団等
農家率 (内訳)	42.4% 総世帯数 191戸 総農家数 81戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家 7戸 1種兼農家 1戸 2種兼農家 17戸
農用地の状況 (内訳)	耕地計 111.9ha 田 60.3ha 畑 41.5ha 耕地率 3.8% 農家一戸当たり耕地面積 1.4ha

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

#### ア 農地の保全・管理と地域コミュニティ維持の危機

当地域の農地は狭少で不整形なため、米麦養蚕が主体の地域であった。養蚕の不振に伴い高い標高を活かした畜産（肉用牛・乳牛）やりんごの導入が図られたが定着せず、米と自家用野菜の生産にとどまった。農家の後継者である若い世代は地域外に定職を求め、地域の過疎化と高齢化が進んだことから、個人での農地の保全・管理が難しくなり耕作放棄地の鳥獣被害が深刻化し、地域のコミュニティ維持が厳しい状況となった。



写真1 原生林と化した耕作放棄地

こうした中、現在の「帯那地域活性化推進協議会」（以下「協議会」という）の会長である末木英明氏が、平成12年の定年退職を機に地元へ帰り自治会の役員となった。末木氏は、「若い人が集落の外へ出て、耕作をする者の高齢化が進行し耕作できないようになれば、集落の田んぼや畑が荒れ放題になってしまう」という強い危機感と、「集落全体で行動を起こせば、多くの人が地元に戻り農業を再開してくれる」という思いがあった。末木氏を中心に、地域住民の有志の「地域活性化のためにできることは何か」という検討が始まった。

#### イ 協議会の誕生

末木氏らは、月に一度の自治会の役員会で帯那の地域づくりを訴えたが、問題意識や危機感が希薄な役員への反応は「ほんなことを言ったって役所に笑われるだけでだめだぞ。」であった。末木氏らは「地域で活動するには住民1人が欠けてもだめで、住民全員が参加した組織にしなければ地域づくりは出来ない」と根気強く訴え続け、賛同した住民で、耕作放棄地から再生した農地でサツマイモの栽培を開始した。その行動



写真2 耕作放棄地を畑へ

を見た地域住民に地域づくりの意欲が芽生えた。地域住民の「いったん帯那を出て行った人も、いつか生まれ育った土地に戻りたいと思えるような環境をつくりたい」という思いから、平成16年に協議会が発足した。

## ウ 現在に至るまでの経過等

協議会のワークショップでは、地域資源の掘り起こしや地域の問題点の把握について話し合い、先進地視察を行った。耕作放棄地を農地に再生し、地域の景観の改善や市内幼稚園や企業の農業体験の受入れ等の取組を重ねるとともに、地域全体に耕作放棄地解消の取組への理解が広がり、地域の全戸が協議会に参加することとなった。地域住民が「地域活性化」という共通の目標を持つことで、協議会での意見交換が活発となり、併せて協議会の役員が兼務する自治会組織も活性化されてきた。

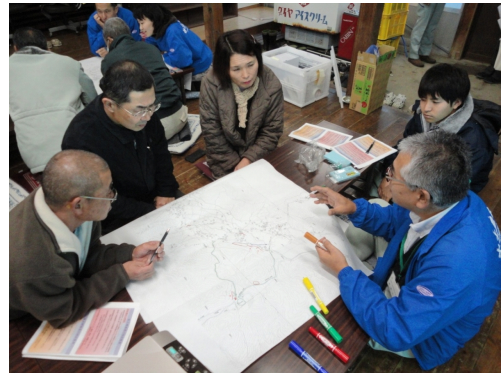


写真3 ワークショップでの話し合い

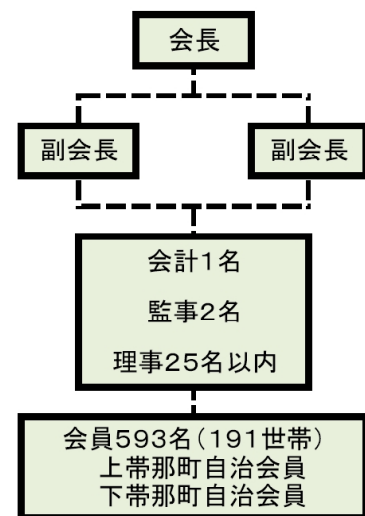
## (2) むらづくりの推進体制

### ア 組織体制、構成員の状況

協議会は、甲府市の上帯那町・下帯那町2町の住民約600名で構成され、役員31名（内会長1名、副会長2名）により運営されている。協議会に担当部会等を設置していないが、住民個々の得意分野を活かした役割分担で、現在までに地域住民が一人も欠けることなく、地域の景観保全や地域活性化のための多様な活動を継続している。

### 第2図 組織体制

#### 帯那地域活性化推進協議会



### イ 他の組織、団体、行政などと連携した取組

山梨県の耕作放棄地整備・景観保全事業を導入し、耕作放棄地から再生した農地を活用して、会員の家族が通う市内幼稚園の農業体験（じゃがいもの掘り取り）の受入れ（平成16年～）、農業機械メーカーの支援を受けての「菜の花プロジェクト」の取組（平成21年～）、(株)ファミリーマートとの「企業の農園づくりに関する協定」締結（平成23年5月）と社員等の農業体験活動の受入れ（平成23年～）を開始している。

## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. むらづくりの性格

当地域では、原生林と化した耕作放棄地を再生した農地等で、菜の花の栽培による景観改善とその利用や企業等の農業体験を受入れることで、地域外の住人との交流と耕作放棄地等の解消の取組を始めた。地域外との交流により、地域住民は景観や地域農産物等の地域資源を再発見し、生産意欲を向上させた。発見した地域資源を活用した菜の花鑑賞会等の地域外から集客するイベント等を開催し、地域の社会と経済を活性化している。

### 2. 農業面における特徴

#### (1) 原生林から再生した農地を有効活用しよう！

山梨県の事業を活用して耕作放棄地から再生し鳥獣被害対策を行った農地で、「菜の花プロジェクト」や「レンタル牛活用放棄地対策モデル事業」（県事業）に取り組んでいる。地元小学生や地域住民（約200人）が参加して播種し、環境保全活動に取り組む農業機械メーカーの支援を得て収穫した菜種は、食用油として地域のイベントやコンビニエンスストア（ファミリーマート）で販売されている。



写真4 企業の農園づくり

㈱ファミリーマートと、相互に連携協力して帯那地域の活性化を図ることを目的に「企業の農園づくりに関する協定」を締結（平成23年5月）し、遊休農地で社員の家族対象の農業体験（水稻、菜の花、大豆の栽培）を受入れている。

また、東京都で開催された「全国エコライフフェア」（環境省主催）に参加し、地域の米や野菜の販売や、農業体験の様子をパネル展示し、地域の素晴らしさを伝えた。

#### (2) 気持ちのいい帯那地域の美味しい農産物

菜の花プロジェクト等の取組では、地域の耕作放棄地の26%（6.4ha）を解消するとともに地域の景観が改善され、菜の花を栽培するほ場に鳥獣被害対策

を講じることで、地域内の被害が減少となった。企業の社員等との交流が地域住民の農産物の生産意欲を刺激し、農産物の生産が増え始めた。一部地域住民は甲府市内にあるJA直売所で販売し、帯那地域の農産物は美味しいとの評判を得ている。今後は、移動手段のない高齢者等の農産物の販売機会確保に向け、地域内に直売所の設置を検討している。



写真5 菜の花プロジェクトで景観改善

### (3) 地域の女性が自信を持って農産物を販売

地域外との交流活動を通じて地域の女性が、接客する張り合いと農産物に対する自信を得て、地域農産物の販売活動に積極的に参加する様になった。地域の女性の間では、地域農産物の直売や加工食品の製造・販売のため、直場所・加工施設の運営の機運が醸成されている。

## 3. 生活・環境整備面への寄与状況

協議会での地域の未来を考えるワークショップを通じて、地域の子供や高齢者を含む全員が、帯那地域のことを理解し、一体となって地域づくりに取り組む様になった。

### (1) 地域が一体となって地域の自然を守る

地元小学生と会員が一体となって、ため池の除草作業や外来魚（ブルーギルやブラックバス）を駆除する「外来種駆除対策大作戦」を実施し、地域の景観や生態系を守り水質の改善に努めている。



写真6 交流イベントで活躍

### (2) イベントや行事を通じてコミュニ

#### ティ機能が強化

地域の景観を活用する「菜の花観賞会&琴の演奏会」(5月上旬開催)での接客、市内幼稚園児対象の農業体験活動での農作業の指導や、企業社員との交流活動での郷土料理の提供を通じて、地域住民の交流や情報交換が活発となり、地域の活性化となっている。特に地域の女性が積極的に地域活動へ参加し、イベントや行事をリードする様になっている。

第2表 むらづくりに関する年表

年 度	概 要
平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地を開墾してさつまいもの試作を実施</li> </ul>
平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帯那地域活性化推進協議会を設立</li> <li>・耕作放棄地の農地復帰への取組を開始</li> <li>・市内幼稚園のじゃがいも収穫体験（～H18 まで）</li> </ul>
平成19年度 ～23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地・水・環境保全向上対策に係る協定を甲府市と締結</li> <li>・ジャガイモ収穫祭の実施 ※以降毎年実施</li> </ul>
平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉の花プロジェクトの取組を開始 ※以降毎年実施</li> </ul>
平成21年度 ～23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帯那地域づくりワークショップの実施</li> </ul>
平成22年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菜種油の製造・販売を開始</li> </ul>
平成23年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の農園づくりに関する協定を（株）ファミリーマートと締結</li> <li>・企業の農業体験の受入れを開始 ※以降毎年実施</li> </ul>